

大満足のドイツフェア

会員 本間啓子

あしたは参院選という7月28日の夕方、毎年、夏には楽しみにしている「ドイツフェア」が湘南ホテルで盛大に行われた。

車椅子生活のため普段、退屈な毎日を過ごしている母が、ぜひ行ってみたいと言うのと、私の誘いに乗った親戚夫婦、ビールの好きな妹、それにバイオリンを聞きたいと姪までもが参加することになり、総勢6名で会場に入った。会場には日本とドイツの国旗が飾られており、私は5年前にドイツの友人宅を訪問したときのことを思い出した。友人の家や彼のお母さんの家には外からよく見える所に日本の国旗を飾って私を歓迎してくれたのだった。さて、ほかのテーブルでは、もうすでにビールで盛りあがっていた。“Ein Prosit”を歌って乾杯。ドイツ料理が運ばれてきた。「いわしのマリネ」はさっぱりしていて「白いんげんとベーコンの煮物」は母にも大好評だった。そしてドイツ観光局の方のお話で旧東ドイツへの日本人の観光客が昨年は40%も増えたということを聞いた私たちは「行きたいね」とうらやましそうに顔を見合わせていた。

音楽の方はもちろんすばらしく、湘南男声合唱団の皆さんは赤いネクタイがまぶしく、力強い迫力いっぱい合唱を聞かせてくれた。また、石塚千恵さん、坂内紀子さんのバイオリン、渡辺久仁子さんのピアノの超絶技巧を使った演奏には会場中が魅了され、ため息があふれた。そして梶井智子さんの澄んだソプラノでレハールのオペレッタの曲を楽しんでいると会の盛り上がりも最高に達したところで、お楽しみの抽選会が始まった。ハラハラドキドキしながら私たち6名のうち3名が東急ハンズの商品と鳩サブレ2つを当てることができ大満足のうちにお開きとなった。会が終わった後も興奮さめやらぬ私たちはロビーで誰もいなくなるまでおしゃべりが弾んで、来年のドイツフェアを今から楽しみにしながらホテルを出た。



ドイツフェアにおける湘南男声合唱団の演奏

湘南日独協会 2001・2年度活動予定

■ 10月27日(土) 会員懇話会 18:00～

会場 ホテル法華クラブ藤沢2Fローズルーム

■ 11月24日(土) 第18回例会 講演会

演題 「ベルリンの壁崩壊目撃談」

講師 大島陽一氏 (帝京大学教授)

会場 ホテル法華クラブ藤沢2Fロータスホール

■ 12月 (未定) 忘年懇話会

■ 1月26日(土) 第19回例会 講演会

演題 ユーロの実施を巡って (仮題)

講師 永井清陽氏 (青山学院大学講師)

会場 ホテル法華クラブ藤沢2Fロータスホール

■ 2月23日(土) 会員懇話会 18:00～

会場 ホテル法華クラブ藤沢2Fローズルーム

湘南日独協会会報 (Der Wind)

VOL 3 . NO. 5 . 通巻 17 . 発行 2001. 9 . 22.

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan

事務局：〒251-0055 藤沢市南藤沢8-9 中丸ビル2F

TEL0466-26-3028 / FAX0466-27-5091

湘南日独協会 会報

Der Wind

第17回例会・講演会：歴史を書き換えるか？

「ゲーテンベルクの発明に関する新説」

講師：高宮利行氏 (慶応義塾大学教授)

【講師紹介】

高宮利行氏は、1944年2月23日生まれ。イギリス文学、とくにアーサー王伝説についての研究で日本有数の学者の一人です。夏目漱石の作品にあつかわれていたアーサー王伝説のテーマをめぐって江藤淳と大岡昇平のあいだで論争があったのは日本文学の歴史における事件として国文学者たちの間でよく知られていますが、この論争中に高宮氏の研究の成果がしばしば話題とされました。高宮氏には書物の歴史についての著述と翻訳も多数あって、この道の権威と呼ぶことのできる人です。慶応義塾大学が所蔵する『ゲーテンベルク聖書』の科学的な解明研究をイギリスの諸大学図書館と連携しておこなってきました。その結果、興味深い事実が浮かび上がってきました。スリリングとも言える発見の一端をNHKテレビで放送された映像などを通じて明快に語ってくださいます。

今から500年前、ゲーテンベルクによる活字印刷の発明は、今日におけるIT革命におとらない画期的な発明であり、宗教革命の引き金にもなってヨーロッパの歴史を変えました。ドイツに起こった文化史を変えるほどの力を発揮した活版印刷に秘められた謎を解く話は、高校生や大学生などの若い人々にも大きな知的刺激となるにちがいありません。

(2001年4月22日朝 宮下啓三)

2001 ドイツフェアに参加して

会員 水谷裕一

昨年のドイツフェアに初めて参加し、こんな楽しい事は独り占めにせず友と分かち合いたいと思い、今年は大のドイツ最員の友とその奥さんをお誘いした。遠路千葉からの参加。会場で受付を終えると、正装の御婦人、紳士の面々、その一方でカジュアルな出で立ちの方もいらっしやる。これも個性を尊ぶドイツ風というべきか？ 後者の格好で臨んだ我々もほっと安堵した。めいめい好きな飲み物を飲み始めて間もなく、開会はEIN PROSITを歌ってワインで乾杯。続いての湘南男性合唱団による歌はミュンヘンのビアホールで手に入れた楽譜によるメンデルスゾーンの「野ばら」など、いずれの歌もすばらしいハーモニーで、今年もたっぷり楽しませて頂いた。料理は勿論ドイツ料理。友人が注文してくれたワインが運ばれてきた。少し甘口で果実の香りがほんのりとした旨いワインでドイツ料理の味を一層引き立てた。あまりにも口当たりが良かったので、友は同テーブルの皆様に残り半分をおすそ分けした。それがきっかけでテーブルの話が盛り上がってきた。料理、ワイン、話が一層弾んできたところで、いよいよ特別編成楽団「シュバルベ」による演奏が始まった。

アルコールが相当回って、会場がざわついていたのが、バイオリンの軽快な演奏がはじまると、会場は急に静かになり、続いて歌曲の熱唱が始まった。最後のレハールの「シュディッタ」より、“唇に熱いくちずけを”で最高潮に達した。うっとりとした心地になってゆくを感じた。しかし、急に時が過ぎ、Muss i denn 斉唱が始まり会が終わりに近づいていることを悟らされた。最後の抽選会。不景気の時によくもここまで多くの景品を獲得されたものだと感じた。開会から3時間あっという間に過ぎた。Gemütlichkeit そのものの時間。来年も必ず参加したい。



随想

2001 ドイツフェア

会員 佐合千佳子

“Ein Prosit” 美しいドイツ音楽の調べとともに今年も“ドイツフェア”が、夏の青い海に臨む湘南ホテルで催されました。美味しいドイツワインで乾杯の後、ビールで喉を潤しながら頂いた料理は、「イワシのマリネ」「白いんげんとベーコンの煮物」「ローストポーク」「骨付鶏肉の蒸し煮とソーセージ」「ザウアクラウト」「ジャガイモの蒸し煮」そして「ドイツケーキ」と、心行くまでドイツの味を満喫。

今回のドイツフェアには、3人の友人とともに参加させて頂きました。ドイツ好きの主婦である友人達は「湘南男声合唱団」の男らしく、力強い歌声によるドイツの歌曲や、ミュンヘンのビア音楽に、しばしの間聞き入っていました。ドイツ国旗と日本国旗の唯一の共通色、その赤いネクタイをして心から楽しそうに唄う合唱団の方々の姿もとても印象的でした。

3人の友人達は、この企画は日独協会主催なので、きっと何人かのドイツ人の方も参加していると思っていたのに、ドイツ観光局のお一人のみがドイツ人ということで、少し残念がっているようでした。

音楽好きでもある彼女たちは、素敵な「シュバルベ」の演奏にも感激していました。演奏はとても美しく、素晴らしく、すごく“wunderbar”でした。

そして、お楽しみみの抽選会。「4人に1人は必ず何かが当たります」との司会者の言葉に反し、何故か私たち4人どころか、同じテーブルの方はどなたも当たりの方がおられず、「こんなこともあるのね」と、思わず笑ってしまいました。

“美味しい料理”と“美しい音楽”と“ビール”で盛り上がったこの宴席は、“Muss i denn”を日本語による全員合唱で締め括られました。「ドイツ語でも“Muss i denn”を歌いたかった」というのが私の感想でした。(Max Seinsch 先生のドイツ語講座受講生)



随想

2001 ドイツフェアに初参加

会員 猪股誠三

開場の湘南ホテルに着いたのは開演15分前、急いで受付を済ませ空席を見つけてホット一息、周りを見渡すとたくさんの方が楽しそうに談笑している。

バイオリンの生演奏をBGMに前菜を頬張り、ドイツビールを飲む。よく冷えたビールが喉を通り過ぎるこの瞬間は何とも言えず幸せな気分になる。初めての参加なのでどのように振る舞ったらよいのか分からず妻と他愛ない話をしながら開宴を待った。

参加者200名以上(内、湘南日独協会会員50名)と司会者から紹介があったが会員の参加が意外に少ないと思った。この催しは13回目で湘南日独協会が主催するようになって3年目との事で地域に根ざした活動になっているような印象を持った。

私どもが湘南日独協会に加入するキッカケについて少し触れたい。昨年3月から約10ヶ月間ドイツからの留学生を受け入れた。その歓迎会が鎌倉の遠山理事宅で行われ、そこで入会を勧められ妻と話し合って2人で入会した。留学生が帰国して早くも半年が過ぎた。この夏休みには妻とドイツの留学生の家を訪問する。お土産は何か良いか迷いながら初めてのドイツに心が躍る。

さて、ドイツフェアの会場は、円卓テーブルが20卓位はあっただろうか。1卓に10人の席があった。広い会場の正面にはステージがあり、ドイツと日本の国旗が掲げられ、柔らかな照明が演出効果を高めている。湘南男声合唱団のハーモニー、シュバルベのバイオリンとピアノ演奏、梶井智子さんのソプラノ、昔懐かしい曲などもあり心和む時を過ごすことが出来た。ドイツワインを飲み、次々と出される料理を楽しみながらアツという間に時間が過ぎてゆく。最後に抽選会があったが我々は幸運に恵まれなかった。次に期待したい。